



## 独立国佐伯 郷土史茶飲ばなし

御手洗一而著 佐伯史談会発行

著者はさきに『巴の鏡』『毛利高政』を刊行したが、この度は佐伯地方の郷土史であるため、史談会より発行した。著者はこの本のあとがきで

先の著書や「明治の三青年」（佐伯史談連載中）の資料集めの時に、そのつど、疑問点や感じたことを書きとめておいたものがあ

った。

それを時代順に項目別に分け、歴史随想ふう続けることよって「よだきい」の生まれる土壌、歴史的背景を探究したつもりである。そして古代史から順を追えばそれなりに佐伯の歴史になり、项目的に興味のあるところから読んでも、読み切れるように工夫した。

……中略……この小冊子は、つとめて過古に活字にならなかつた話題を選んで集め、一つの茶飲話から古里をより多く知ってもらいたいと思っている。……以下略この本を読んだ人は一様にこんな言っている。……

「面白かつた。私のような素人にも佐伯地方の歴史がよ

う」などと喜んで下さっている。また「さすがは歴史文学者だ。歴史を見る目が違う。よい参考になつた」と。

紙数が尽きたので内容の詳細な紹介はできないが「よだきい」から説き起し、古代から現在に及んでいる。

会員の皆さん、ぜひ御一読下さい。何かつかむものがあるはずですよ。一四〇頁の小冊子ですが、菅一郎先生の「神の井」の絵をカバーに使わせて頂いて、きれいな本ができました。史談会取扱いに限り会員には特別に一一

〇〇円です。書店では一二八〇円で販売中。（塩月）